



# Referee Time

(審判だより44号)

2017.10.19

## 日々研鑽を！

昨年度、今年度と2ペアが新たにA級審判として誕生し、活躍してもらっています。「新垣裕己・比嘉育志」「比嘉由紀乃・玉城加奈恵」ペアです。2ペアとも全国大会でジャッジをしてもらっています。これからも「Players First」を念頭にしっかりレフェリングを行ってほしいと思います。

今号は、43号の続きです。皆さんも上級レフェリーの感想等を参考に、これからのジャッジに生かし、日々研鑽をお願いします。

第46回全国中学校ハンドボール大会の審判員を終えて

A級審判員 新垣裕己

平成29年8月17日(木)～20日(日)に沖縄県で開催されました第46回全国中学校ハンドボール大会の審判員を終えて、福島亮一副審判長(国際レフェリー・九州協会審判長)より、多くを学ぶことができ、良い経験をさせていただきました。今大会を終えて、特に感じたことは「レフェリーの目的と考え方」についてです。

まず、審判の役目は、選手・役員の日頃の練習の成果を発揮させ、選手の能力、チームの持ち味を引き出すことだと考えています。主役は選手ですので、レフェリーが目立ってはいけません。目立たないレフェリーは、笛が少なく、強弱がはっきりしていると思います。私自身、かつては一生懸命オーバーステップや反則を取ろうと試合に臨み、自分よがりの笛が多々あったと反省をしています。

しかしながら、試合中レフェリーが出ないといけない場面があります。高速またはジャンププレーヤーへの横または後ろからの防御に対しては、上記の審判の役目を逸脱するため、排除(一発退場)する必要があります。オーバーステップに関しては、技術と経験が伴うと考えています。5歩は絶対オーバーですが、3～4歩は、笛のタイミングと審判の立ち振る舞いでカバーすることも可能だと思います。

以上、今大会を終えての反省となります。今回、全国大会へ派遣していただいたことに感謝を申し上げますと共に、これからも、レフェリーとして謙虚な姿勢を第一に、選手の力が十分発揮できるよう吹笛していきたいと思います。ありがとうございました。

第46回全国中学校ハンドボール大会の審判員を終えて

A級審判員 吉田 順太

今回、全国大会をレフェリーとして担当させて頂きました。今回は沖縄大会ということでとくに他の大会と違った雰囲気であったり、とりわけ緊張したりもなく、ペアの新里先生と日頃の笛が吹けたのではないかと思います。もちろん、全てにおいて納得のいくレフェリングが出来たということではなく新たな課題が出てきたり、儀間副

審判長からもご指摘・アドバイスも受けました。

今大会を通して審判反省会で福島審判長からアドバイスがあった内容を以下にお伝えしたいと思います。

◆ 審判団に対してのアドバイス；福島審判長より

- ・判定は静止した状態で行う。そのほうが正しい判定が出来る。
- ・ゲームの流れに乗った笛を吹くこと。

※ 不要な笛吹く必要は無い。審判は目立たず、ゲームの流れに水を差すような笛は吹かない。流れを止めるような笛を積み重ねるとチームやベンチに不要なストレスを溜めていくことになる。⇒何かあった時にクレームやラフプレーにつながる。

- ・プレーの最終局面だけで判定することなく、そのプレーの過程をしっかりと見て判定を下す。
- ・ゲームの終盤には、6対6でプレーが出来ている状態が理想である。

※ ゲームの終盤で退場者が多くいる状況は好ましくない。そこに至るまでに、レフェリーの判断基準をしっかりと選手・チームに浸透させておくこと。

- ・選手達のこれまで練習してきたプレーを十分に発揮させる。

以上、県内審判員も参考にしてもらえたらと思います。

最後に、個人的な反省としては、A級レフェリーとして、競技規則にもっと精通（勉強）しないといけないと痛感しました。今後も学び続ける姿勢を忘れず努力していきたいと思えます。この度は、このような機会を頂きありがとうございました。

第22回ジャパンオープンハンドボールトーナメントに参加して

A級審判員 知念昌平

- 【担当ゲーム】 向陵クラブ v s 香川クラブ (男子1回戦)  
茨城鬼怒 girls v s ナデシコクラブ (女子準々決勝)  
ナデシコクラブ v s HC和歌山 (女子3位決定戦)

【総括等】

平成30年福井しあわせ元気国体のリハーサル大会ということもあり、施設や運営面において準備が行き届いており、選手や審判員も含めてゲームに集中できる素晴らしい環境であった。その中で、私たちは上記3ゲームを担当した。

北信越ブロックの岩上審判長や江成競技委員長から審判会議や吹笛後に指導していただいた点を簡単にまとめる。

- ①より良いゲームを皆で作るために、コーチや選手としっかり共同作業（コラボレーション）ができる関係性を作り上げる。
- ②根拠のある判定がしっかりできるようにすること。
- ③通信機器を利用してTDとコミュニケーションをしっかりとること。
- ④3歩・3秒・3mを感覚だけに頼るのではなく、しっかり確認すること。
- ⑤罰則やステップ等の基準をしっかりとること。
- ⑥選手やコーチとの適切なコミュニケーションが取れたか振り返ること。